

岐阜県県政モニター 令和7年度 第4回アンケート結果



岐阜県広報課管理広聴係



第4回県政モニターアンケート調査結果

1 調査対象等

調査対象: 県政モニター926人(郵送モニター:112人 インターネットモニター:814人)

調査方法: 郵送及びインターネット

調査期間: 令和7年12月5日～令和8年1月6日

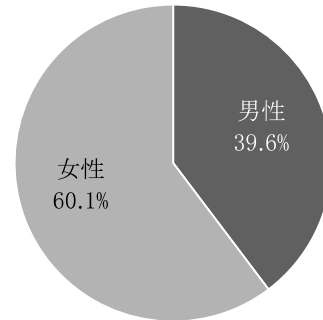
回収結果: 662人(回収率71.5%)

構成比はパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。
そのため、合計が100%にならない場合があります。

2 回答者属性

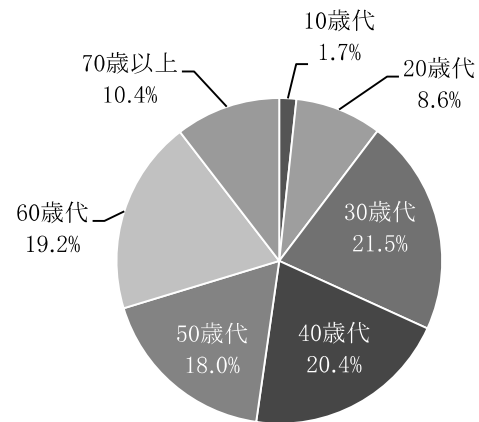
(1) 性別

	人数	割合
男性	262	39.6%
女性	398	60.1%
計	662	100.0%



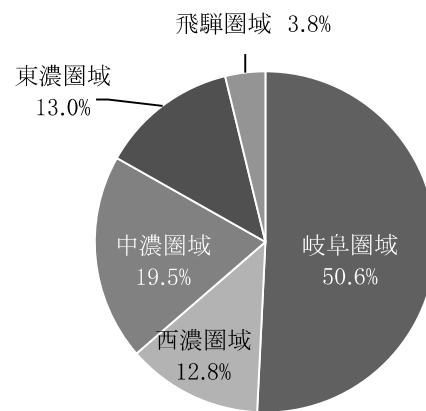
(2) 年代別

	人数	割合
10歳代	11	1.7%
20歳代	57	8.6%
30歳代	142	21.5%
40歳代	135	20.4%
50歳代	119	18.0%
60歳代	127	19.2%
70歳以上	69	10.4%
計	662	100.0%



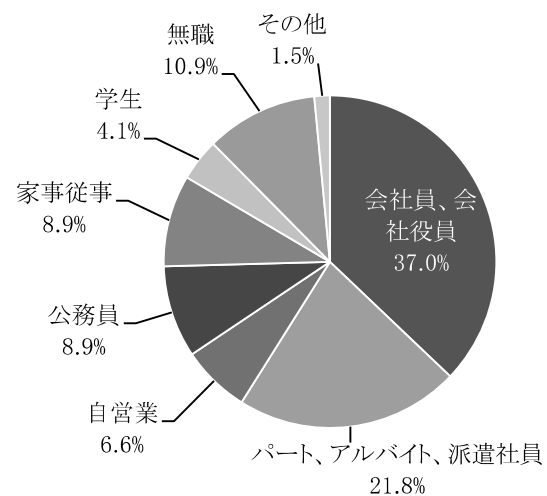
(3) 居住圏域別

	人数	割合
岐阜圏域	335	50.6%
西濃圏域	85	12.8%
中濃圏域	129	19.5%
東濃圏域	86	13.0%
飛騨圏域	25	3.8%
計	662	100.0%



(4) 職業別

	人数	割合
会社員、会社役員	245	37.0%
パート、アルバイト、派遣社員	144	21.8%
自営業	44	6.6%
公務員	59	8.9%
家事従事	59	8.9%
学生	27	4.1%
無職	72	10.9%
その他	10	1.5%
計	662	100%



SDGsに関するアンケート調査結果

SDGs推進課

1 調査目的

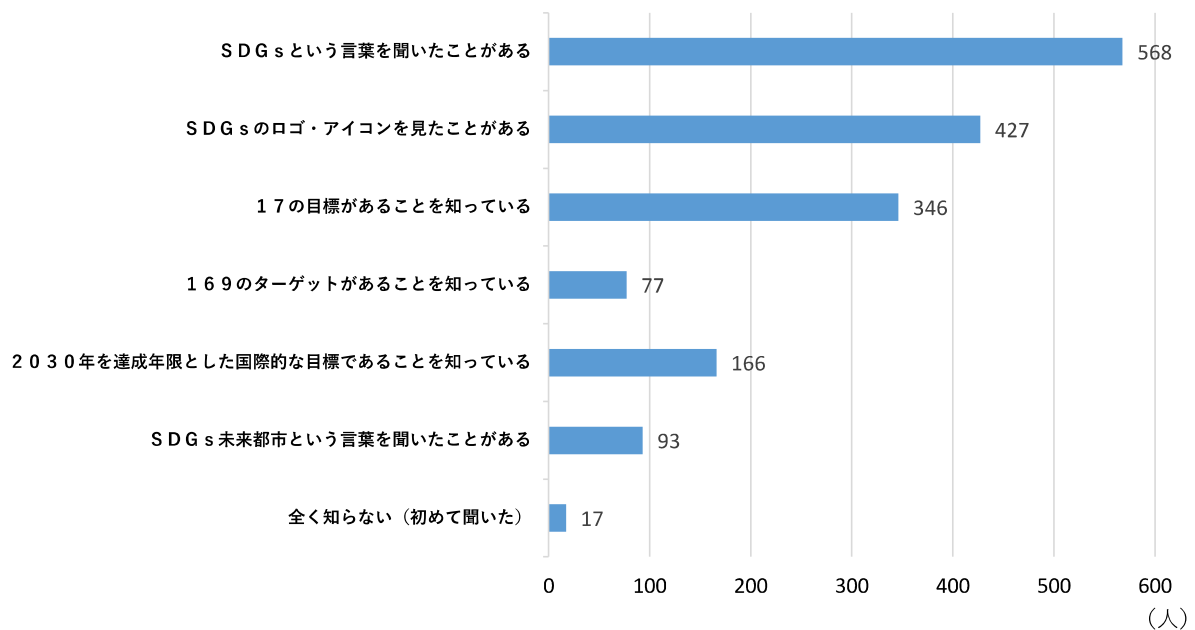
SDGsを原動力とした持続可能な地域づくりの実現への取組みをさらに進めるため、今後の参考として、アンケート調査を実施しました。

2 調査結果

問1 あなたは、SDGsについてどの程度知っていますか。

回答者 662 人 (複数回答)

	回答数	割合
SDGsという言葉聞いたことがある	568	85.8%
SDGsのロゴ・アイコンを見たことがある	427	64.5%
17の目標があることを知っている	346	52.3%
169のターゲットがあることを知っている	77	11.6%
2030年を達成年限とした国際的な目標であることを知っている	166	25.1%
SDGs未来都市という言葉聞いたことがある	93	14.0%
全く知らない(初めて聞いた)	17	2.6%
計	1,694	-

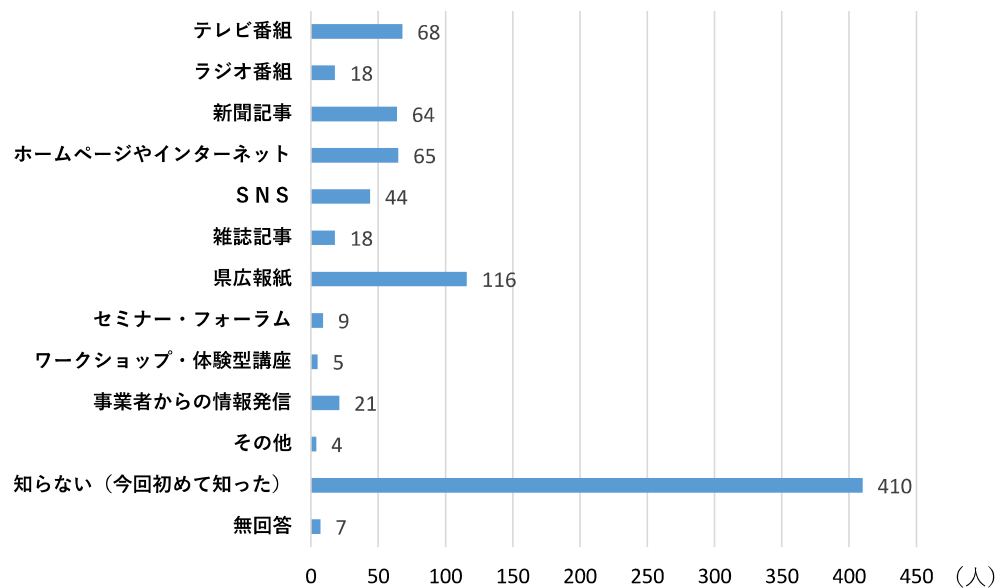


問2 (問1で「全く知らない(初めて聞いた)」以外をお答えの方)

あなたは、「清流の国ぎふ」SDGs推進ネットワークを知っていますか。
知っている場合は、どのように知りましたか。

回答者 646 人 (複数回答)

	回答数	割合
テレビ番組	68	10.5%
ラジオ番組	18	2.8%
新聞記事	64	9.9%
ホームページやインターネット	65	10.1%
SNS (Facebook、X(旧ツイッター)、Instagram、YouTube、LINEなど)	44	6.8%
雑誌記事	18	2.8%
県広報紙 (市町村広報紙や地域情報誌(フリーペーパー)に掲載)	116	18.0%
セミナー・フォーラム	9	1.4%
ワークショップ・体験型講座	5	0.8%
事業者からの情報発信	21	3.3%
その他	4	0.6%
知らない(今回初めて知った)	410	63.5%
無回答	7	1.1%
計	849	-



「その他」のうち主なもの

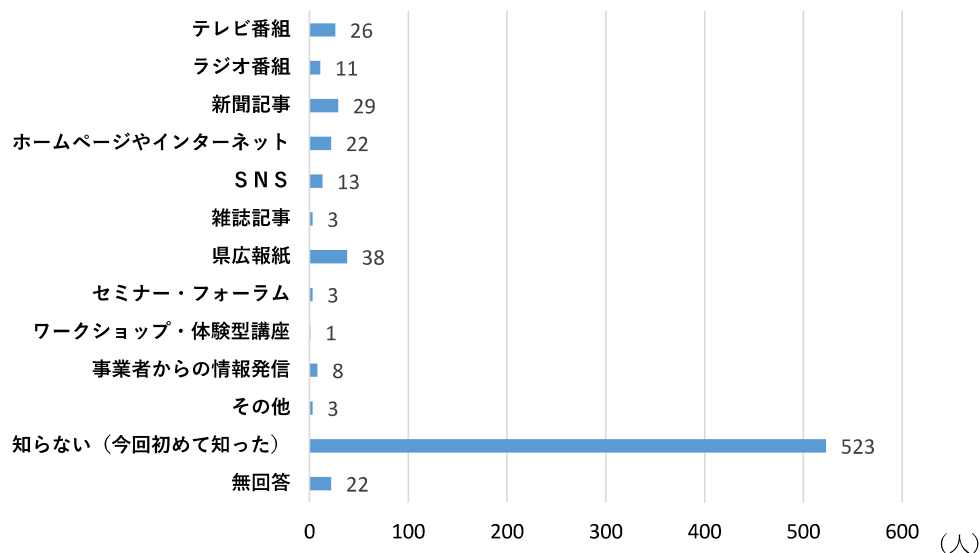
- ・ 講義
- ・ 市町村の広報誌

問3 (問1で「全く知らない(初めて聞いた)」以外をお答えの方)

あなたは、令和5年7月に岐阜県が創設した、県内事業者のSDGsの取組みを見える化させ、その取組み度合いに応じて「シルバーパートナー」「ゴールドパートナー」として登録する「ぎふSDGs推進パートナー登録制度」を知っていますか。
知っている場合は、どのように知りましたか。

回答者 646 人 (複数回答)

	回答数	割合
テレビ番組	26	4.0%
ラジオ番組	11	1.7%
新聞記事	29	4.5%
ホームページやインターネット	22	3.4%
SNS (Facebook、X(旧ツイッター)、Instagram、YouTube、LINEなど)	13	2.0%
雑誌記事	3	0.5%
県広報紙 (市町村広報紙や地域情報誌(フリーペーパー)に掲載)	38	5.9%
セミナー・フォーラム	3	0.5%
ワークショップ・体験型講座	1	0.2%
事業者からの情報発信	8	1.2%
その他	3	0.5%
知らない(今回初めて知った)	523	81.0%
無回答	22	3.4%
計	702	-



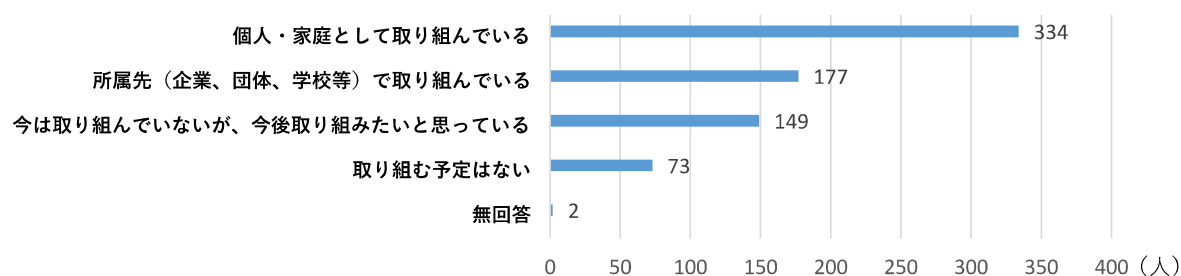
「その他」のうち主なもの

- ・ 勤務先での取組み

問4 あなたは日常生活の中でSDGsを意識して、何か取り組んでいますか。

回答者 662 人 (複数回答)

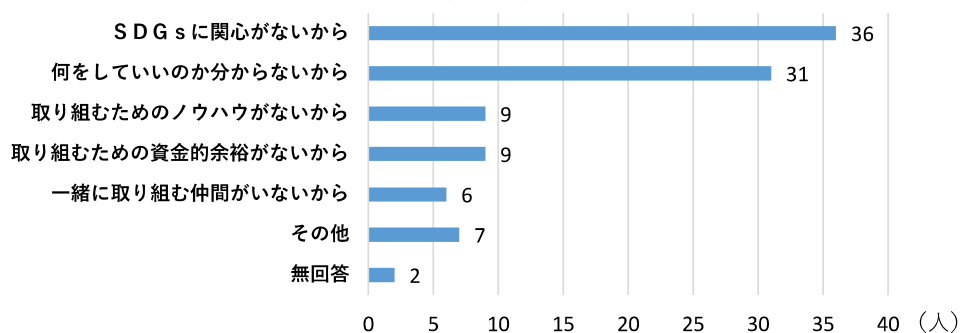
	回答数	割合
個人・家庭として取り組んでいる	334	50.5%
所属先(企業、団体、学校等)で取り組んでいる	177	26.7%
今は取り組んでいないが、今後取り組みたいと思っている	149	22.5%
取り組む予定はない	73	11.0%
無回答	2	0.3%
計	735	—



問5 (問4で「取り組む予定はない」と答えた方)

その理由は何ですか。 回答者 73 人 (複数回答)

	回答数	割合
SDGsに関心がないから	36	49.3%
何をしたいのか分からないから	31	42.5%
取り組むためのノウハウがないから	9	12.3%
取り組むための資金的余裕がないから	9	12.3%
一緒に取り組む仲間がないから	6	8.2%
その他	7	9.6%
無回答	2	2.7%
計	100	—



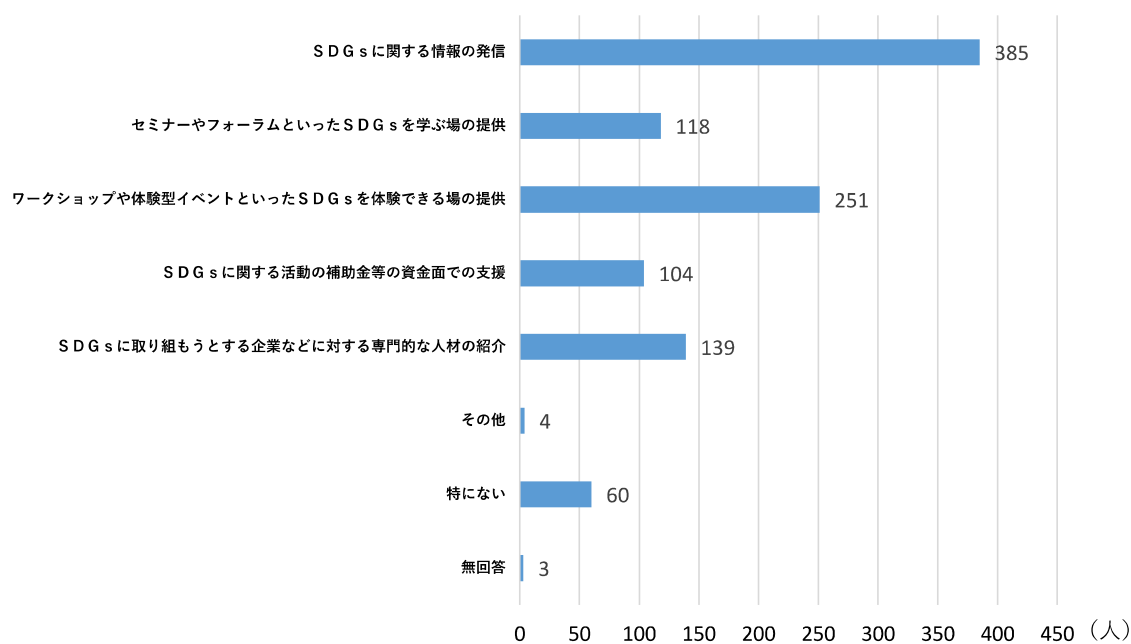
「その他」のうち主なもの

- ・ 特別なことをしようと意識せずとも、当たり前のことを当たり前にする生活をしていれば、個人でできることに関しては、SDGsの掲げる目標を実践していることになると思う。
- ・ 「SDGsに取り組むためにできることを探す」というよりは、日々の行動に対して「SDGsに貢献したともいえるね」と後から確認することの方が多い。

問6 県が行うSDGs達成に向けた施策について、あなたが特に必要だと思うものは何ですか。

回答者 662 人 (複数回答)

	回答数	割合
SDGsに関する情報の発信	385	58.2%
セミナーやフォーラムといったSDGsを学ぶ場の提供	118	17.8%
ワークショップや体験型イベントといったSDGsを体験できる場の提供	251	37.9%
SDGsに関する活動の補助金等の資金面での支援	104	15.7%
SDGsに取り組もうとする企業などに対する専門的な人材の紹介	139	21.0%
その他	4	0.6%
特にない	60	9.1%
無回答	3	0.5%
計	1,064	-



「その他」のうち主なもの

- ・ 県の具体的な取組内容と、県民にとってのメリットをセットで発信することが重要。
- ・ SDGsを意識していない人がとったSDGsに沿う行動に対して「それもSDGsに貢献しています」と気づかせるようなアプローチがあるとよい。

問7 その他、SDGsに関する県の施策に対してご意見などがございましたら、お聞かせください。（主な意見）

○広報について

- 生活をしている中で情報が耳に入っていない。情報発信に使う媒体を見直すべき。
- SDGsの目標に対し、それを達成するメリット・デメリットを具体的なエピソードや事例を入れてPRしてほしい。
- 企業が行っている取組内容をPRする広報誌があるとよい。
- 県主催のイベントや動画配信だけでなく、日々の生活の中で実践できる具体的な行動指針を、より分かりやすく、かつ効果が実感できる形での普及啓発が必要。
- 施策をさらに成功させるためには、いかに県民一人ひとりの『自分ごと化』を促すかが鍵となる。日常生活でできる具体的な行動例を分かりやすく発信してほしい。

○学びの機会確保に関する施策について

- 小中学生がSDGsについて考えられるようなイベントの開催。
- ワークショップやイベントなど参加しやすい場所があるとよい。
- 体験型イベント・親子で参加できるイベントがあるとよい。
- SDGsのみでは敷居が高く共感しづらいため、体験者が体を使って理解ができる取組が必要。

○その他

- 融資目的などで掲げただけの、実効性が伴わない「常態化・形式化」した取り組みが散見される。形骸化した取組に踏み込み、県民個人の日常生活や行動選択にSDGsを落とし込んだ、実効性のある施策の展開が必要。
- 現場の声をより反映した施策や、働く人を守り育てる支援を強化することが、SDGsが掲げる「誰一人取り残さない社会」に繋がると考える。
- 参加団体（パートナー）間の連携をさらに深める仕組みが重要。特定の地域や分野での成功事例を、県内全域の他分野・他地域へ横展開するための情報共有やマッチング機会を増やすべき。
- 具体的行動へのインセンティブが必要。
- 特定の企業・団体及び個人に限定した施策のように思う。施策の水平展開が必要。

環境に関するアンケート調査結果

省エネ・再エネ社会推進課

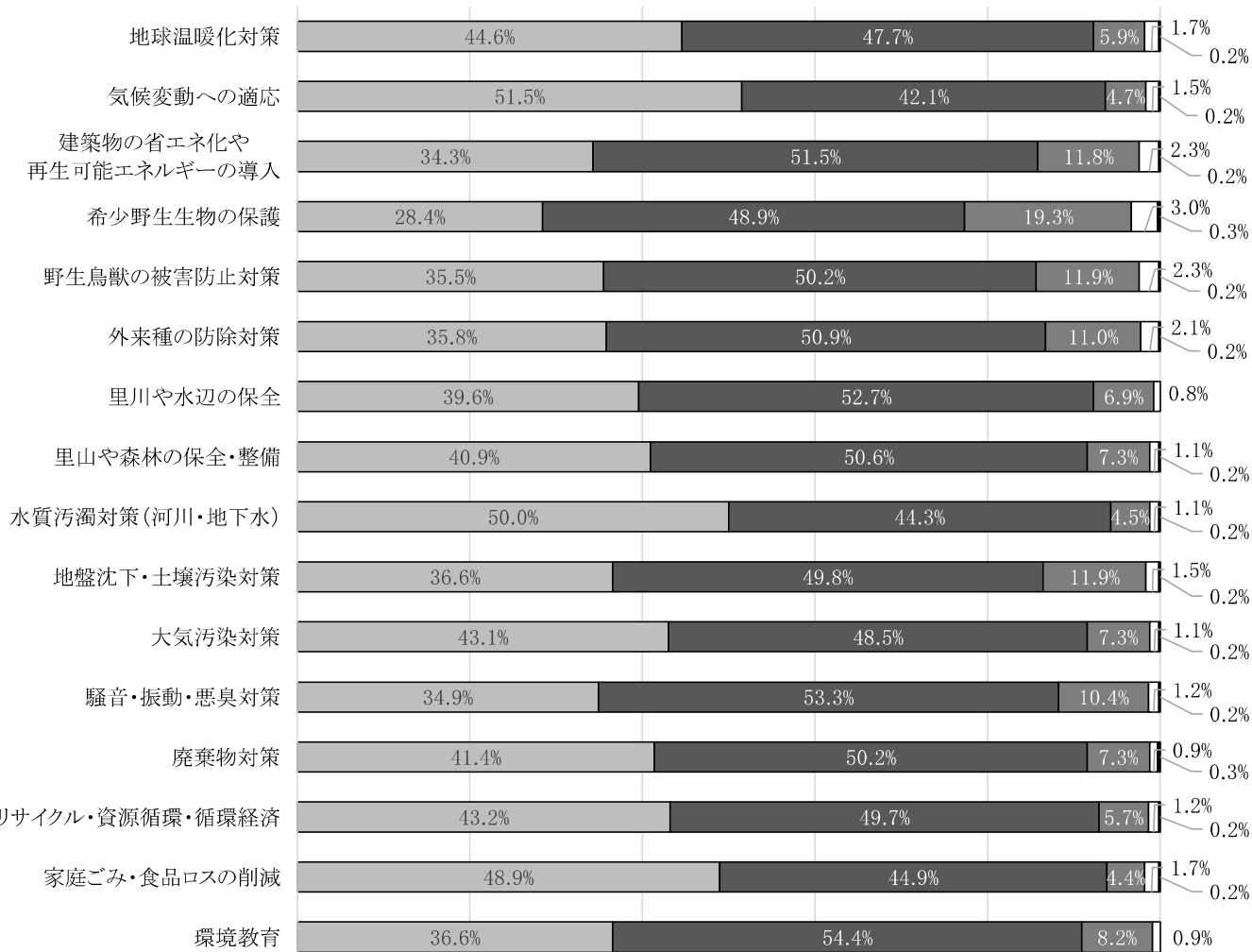
1 調査目的

今後の環境に係る施策の参考にするため、環境に関する皆さんの率直なご意見やご感想を伺いました。

2 調査結果

問1 あなたは、環境に関する以下の項目について、どの程度関心がありますか。

	非常に 関心がある		少しは 関心がある		あまり 関心がない		まったく 関心がない		無回答		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
地球温暖化対策	295	44.6%	316	47.7%	39	5.9%	11	1.7%	1	0.2%	662	100%
気候変動への適応	341	51.5%	279	42.1%	31	4.7%	10	1.5%	1	0.2%	662	100%
建築物の省エネ化や 再生可能エネルギーの導入	227	34.3%	341	51.5%	78	11.8%	15	2.3%	1	0.2%	662	100%
希少野生生物の保護	188	28.4%	324	48.9%	128	19.3%	20	3.0%	2	0.3%	662	100%
野生鳥獣の被害防止対策	235	35.5%	332	50.2%	79	11.9%	15	2.3%	1	0.2%	662	100%
外来種の防除対策	237	35.8%	337	50.9%	73	11.0%	14	2.1%	1	0.2%	662	100%
里川や水辺の保全	262	39.6%	349	52.7%	46	6.9%	5	0.8%	0	0.0%	662	100%
里山や森林の保全・整備	271	40.9%	335	50.6%	48	7.3%	7	1.1%	1	0.2%	662	100%
水質汚濁対策(河川・地下水)	331	50.0%	293	44.3%	30	4.5%	7	1.1%	1	0.2%	662	100%
地盤沈下・土壌汚染対策	242	36.6%	330	49.8%	79	11.9%	10	1.5%	1	0.2%	662	100%
大気汚染対策	285	43.1%	321	48.5%	48	7.3%	7	1.1%	1	0.2%	662	100%
騒音・振動・悪臭対策	231	34.9%	353	53.3%	69	10.4%	8	1.2%	1	0.2%	662	100%
廃棄物対策	274	41.4%	332	50.2%	48	7.3%	6	0.9%	2	0.3%	662	100%
リサイクル・資源循環・循環経済	286	43.2%	329	49.7%	38	5.7%	8	1.2%	1	0.2%	662	100%
家庭ごみ・食品ロスの削減	324	48.9%	297	44.9%	29	4.4%	11	1.7%	1	0.2%	662	100%
環境教育	242	36.6%	360	54.4%	54	8.2%	6	0.9%	0	0.0%	662	100%

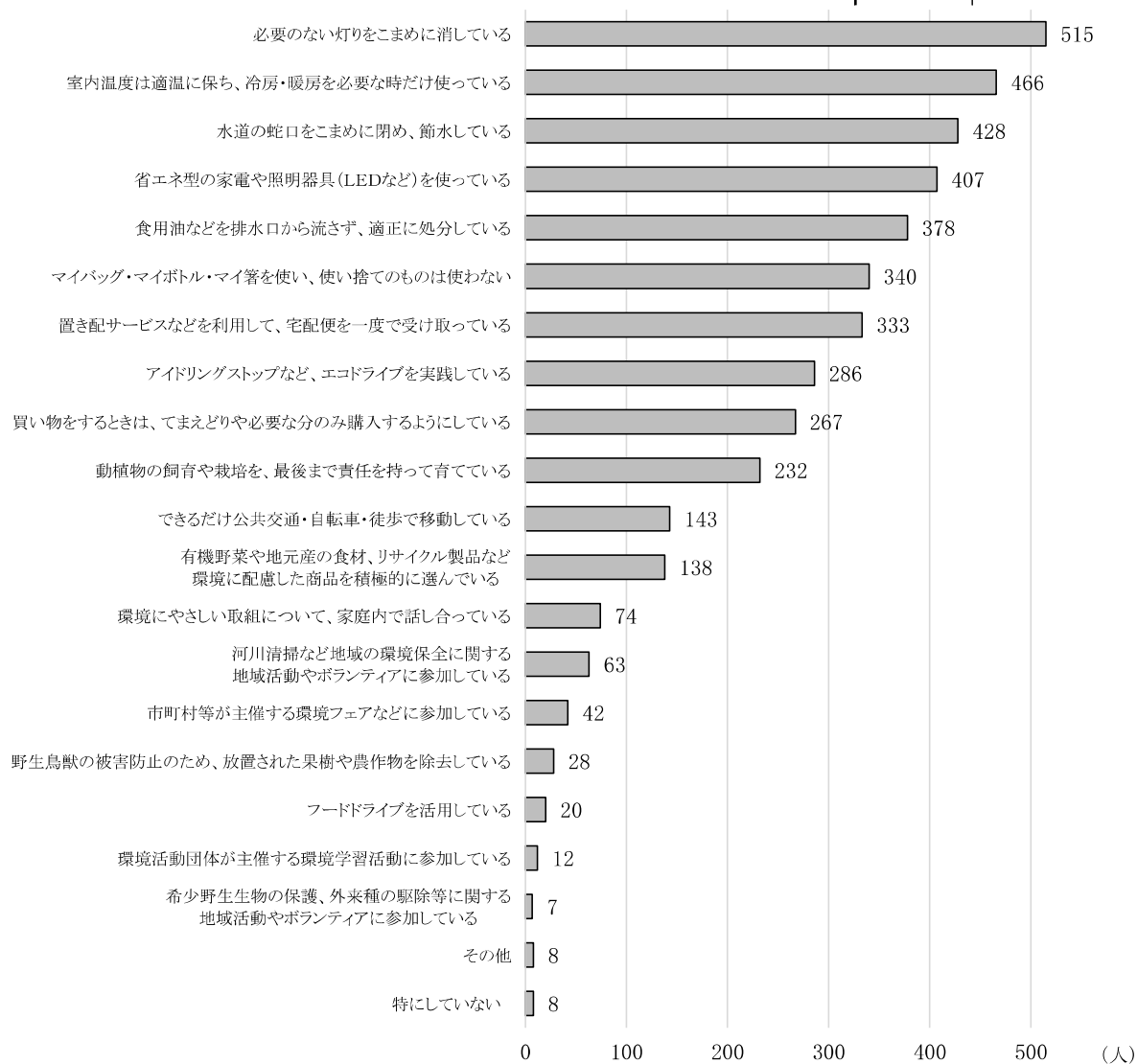


非常に関心がある 少しは関心がある あまり関心がない まったく関心がない 無回答

問2 あなたは、どのような環境にやさしい行動をしていますか。(複数回答可)

回答者662人

	回答数	割合
必要のない灯りをこまめに消している	515	77.8%
室内温度は適温に保ち、冷房・暖房を必要な時だけ使っている	466	70.4%
水道の蛇口をこまめに閉め、節水している	428	64.7%
省エネ型の家電や照明器具(LEDなど)を使っている	407	61.5%
食用油などを排水口から流さず、適正に処分している	378	57.1%
マイバッグ・マイボトル・マイ箸を使い、使い捨てのものは使わない	340	51.4%
置き配サービスなどを利用して、宅配便を一度で受け取っている	333	50.3%
アイドリングストップなど、エコドライブを実践している	286	43.2%
買い物をするときは、てまえどりや必要な分のみ購入するようにしている	267	40.3%
動植物の飼育や栽培を、最後まで責任を持って育てている	232	35.0%
できるだけ公共交通・自転車・徒歩で移動している	143	21.6%
有機野菜や地元産の食材、リサイクル製品など環境に配慮した商品を積極的に選んでいる	138	20.8%
環境にやさしい取組について、家庭内で話し合っている	74	11.2%
河川清掃など地域の環境保全に関する地域活動やボランティアに参加している	63	9.5%
市町村等が主催する環境フェアなどに参加している	42	6.3%
野生鳥獣の被害防止のため、放置された果樹や農作物を除去している	28	4.2%
フードドライブを活用している	20	3.0%
環境活動団体が主催する環境学習活動に参加している	12	1.8%
希少野生生物の保護、外来種の駆除等に関する地域活動やボランティアに参加している	7	1.1%
その他	8	1.2%
特にしていない	8	1.2%
計	4,195	-



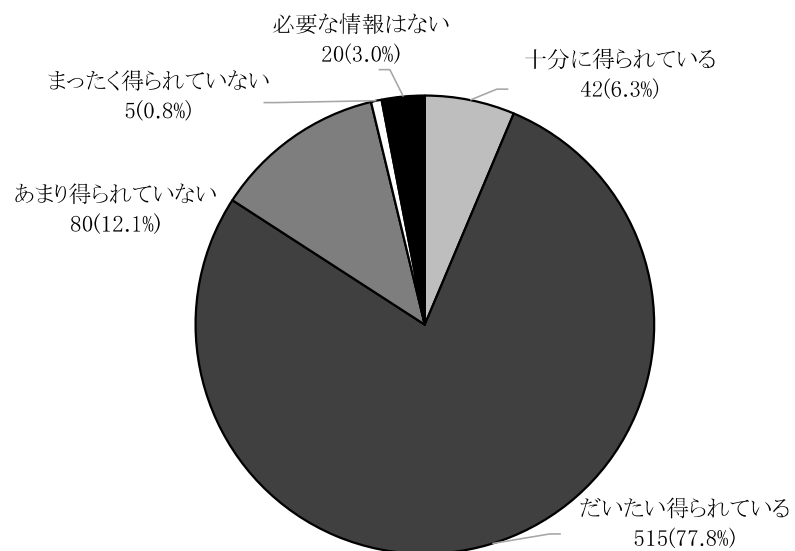
○その他のうち、主なもの

- ・紙類、布類についても家庭内で使い回す
- ・ゴミ拾い
- ・家で野菜を作り、化学肥料を使用しない

問3 あなたは、環境問題を考えたり、環境にやさしい行動を実践したりするために必要な情報は得られていますか。
 また、「あまり得られていない」または「まったく得られていない」と答えた方は、得られていない情報をお答えください。

回答者662人

	回答数	割合
十分に得られている	42	6.3%
だいたい得られている	515	77.8%
あまり得られていない	80	12.1%
まったく得られていない	5	0.8%
必要な情報はない	20	3.0%
計	662	100.0%



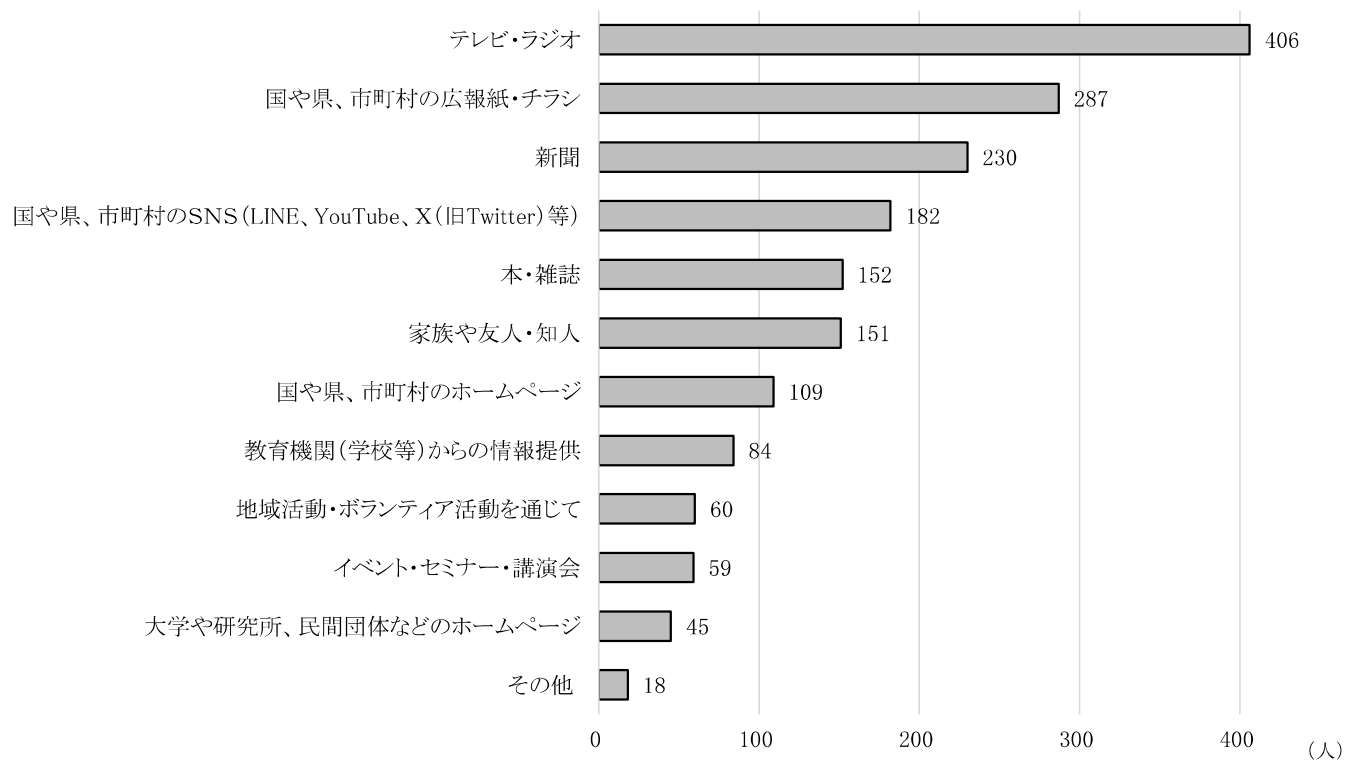
○得られていない情報のうち、主なもの

- ・日常生活でできる環境に優しい行動の具体的な事例と、それによる改善効果
- ・小さい子供でもできる活動や取組についての情報
- ・そもそも必要な情報とは何かがわからない
- ・今後の地球の気候変動について
- ・不用品交換やフードドライブの情報

(問3で「十分に得られている」「だいたい得られている」「あまり得られていない」と答えた方)

問4 あなたが環境問題を考えたり、環境にやさしい行動を実践したりするために 必要な情報を得る主な手段は何ですか。(複数回答可)

	回答数	割合
テレビ・ラジオ	406	63.7%
国や県、市町村の広報紙・チラシ	287	45.1%
新聞	230	36.1%
国や県、市町村のSNS(LINE、YouTube、X(旧Twitter)等)	182	28.6%
本・雑誌	152	23.9%
家族や友人・知人	151	23.7%
国や県、市町村のホームページ	109	17.1%
教育機関(学校等)からの情報提供	84	13.2%
地域活動・ボランティア活動を通じて	60	9.4%
イベント・セミナー・講演会	59	9.3%
大学や研究所、民間団体などのホームページ	45	7.1%
その他	18	2.8%
	1,783	-

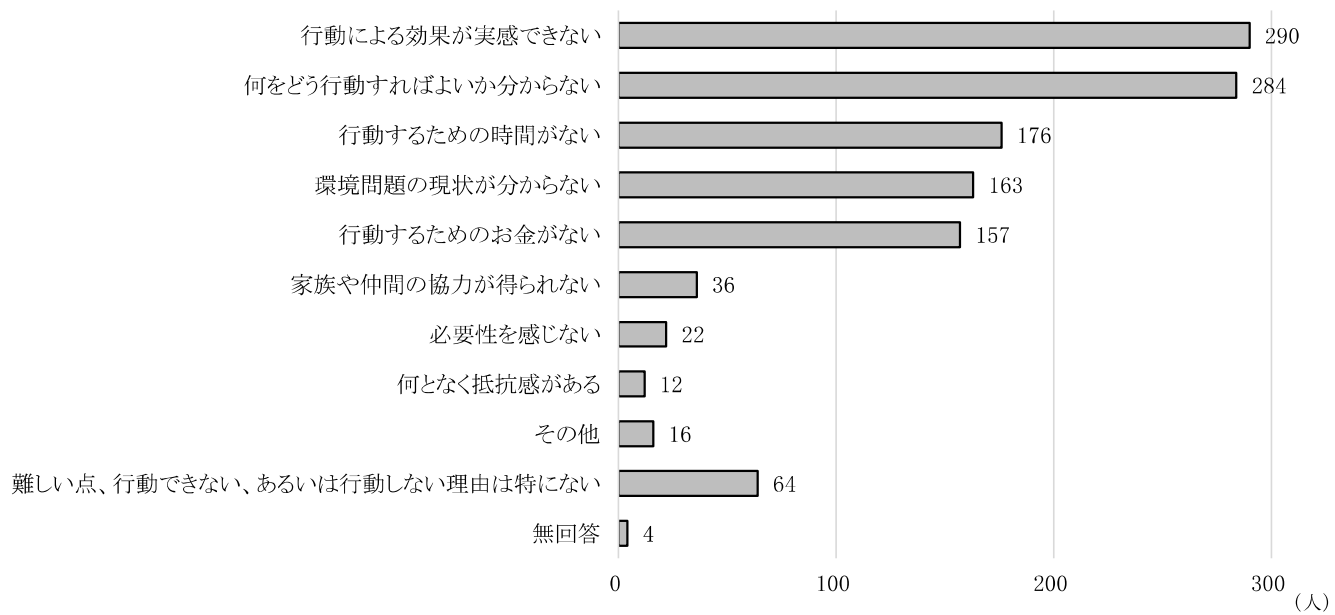


○その他のうち、主なもの

- ・インターネット
- ・インスタグラム
- ・有識者が発信しているSNSなどの情報
- ・会社の教育

問5 あなたが環境にやさしい行動を実践するうえで難しいと思う点、行動できない、あるいは行動しない理由は何だと思えますか。（複数回答可）

	回答者662人	
	回答数	割合
行動による効果が実感できない	290	43.8%
何をどう行動すればよいか分からない	284	42.9%
行動するための時間がない	176	26.6%
環境問題の現状が分からない	163	24.6%
行動するためのお金がない	157	23.7%
家族や仲間の協力が得られない	36	5.4%
必要性を感じない	22	3.3%
何となく抵抗感がある	12	1.8%
その他	16	2.4%
難しい点、行動できない、あるいは行動しない理由は特にない	64	9.7%
無回答	4	0.6%
計	1,224	-



○その他のうち、主なもの

- ・日常生活に余裕がない。
- ・わかってはいても、めんどくさいと感じてしまう。
- ・環境問題に対する意識が低い。

問6 その他、県の環境行政に関してご意見などがございましたら、お聞かせください。

○ネット回答者のうち68人、郵送回答者のうち13人の方から、貴重なご意見をいただきました。（記入率12.2%）

- ・岐阜県の環境行政の現状が把握できていない。広報や実践活動を広め、各市町村毎にテーマとゴール目標を決め活動を行なってはどうか。
- ・みんな環境問題には関心は大いにあると思うが、それに対しての具体的な方法・行動となるとどのような対策が良いのか理解が少ないのだと思う。例えば、二酸化炭素を減らしたいとは思っているが車を利用しないなどの小さな行動でも効果にちゃんと繋がっているのか？よくわからない…など。教えてもらえると参加している意識が高まると思う。
- ・市民に分かり易いような活動が必要かと思います。
- ・将来を担う若い世代が、環境問題を自分ごととして考え、行動につなげられる取組が重要だと感じています。学校や地域を通じて、身近な生活と環境とのつながりを分かりやすく学べる機会が増えることで、環境への関心が継続的に育まれると考えます。若い世代が主体的に参加できる仕組みや、日常の中で実践しやすい環境施策が、今後さらに広がることを期待しています。
- ・熊など野生動物の被害を少なくするための山林の整備。
- ・今年は熊被害が各地で発生しているが、岐阜県も獣被害対策に積極的に取り組んで欲しい。
- ・まだ使える不用品の循環や修理、リサイクル、アップサイクルの拠点を作れないか。
- ・フードドライブを行なっている場所を増やしたりもっと告知をしてほしい。知らない人が多いと思います。
- ・水質管理、ゴミ処理場や処分場の実情を、もっと県民に経費実態を含めて、見やすく突きつけるべきではないでしょうか。必要な論点を明確化して提示していただきたい。
- ・県民が環境変化で気付いた時、話を持っていけるところがわからない。些細な点でも拾い上げる場があると良い。
- ・適応策の強化と温室効果ガスの排出削減は車の両輪ですが、再生可能エネルギーの導入においても、環境保全とのバランス、そして地域住民への十分な説明と合意形成が不可欠です。私たちは、真に持続可能な未来のために、この問題に正面から向き合う必要があると実感しています。

子育て環境に対する意識に関するアンケート調査結果

子ども・女性政策課

1 調査目的

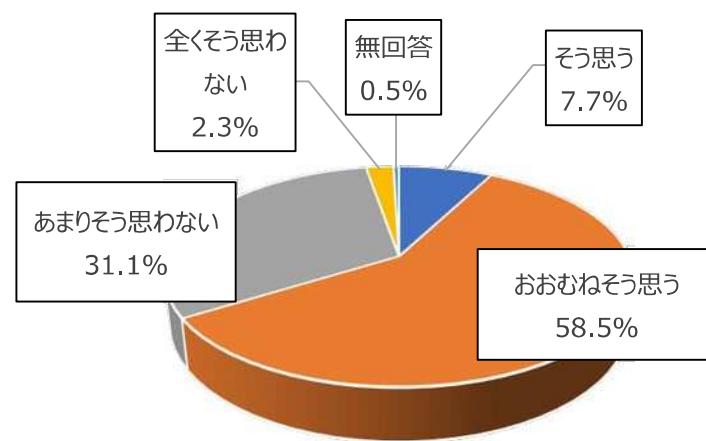
県では、全てのこどもが権利の主体として尊重され、夢や希望を持ちながら、健やかに成長し、将来にわたって幸福な生活を送ることができる「ぎふっこまんなか社会」の実現を目指し、「将来・結婚・出産・子育てに夢を持てる環境づくり」など、様々な施策を推進しています。

そこで、「子育てに関する環境」に対する県民の皆さんの意識を把握し、今後のこども・子育て施策に関する取組みの基礎資料とするため、アンケート調査を実施しました。

2 調査結果

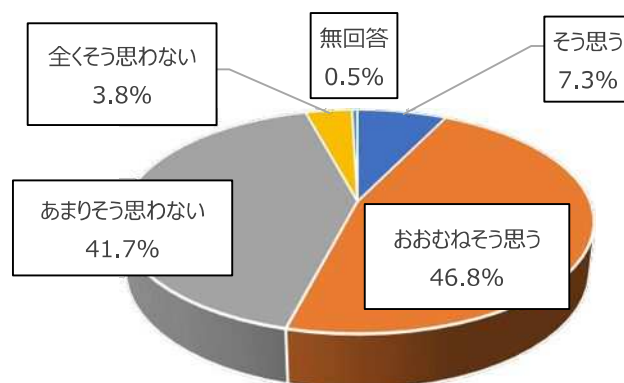
問1 あなたは、岐阜県が子育てにやさしい社会であると思いますか。

	人数	構成比
そう思う	51	7.7%
おおむねそう思う	387	58.5%
あまりそう思わない	206	31.1%
全くそう思わない	15	2.3%
無回答	3	0.5%
合計	662	100.0%



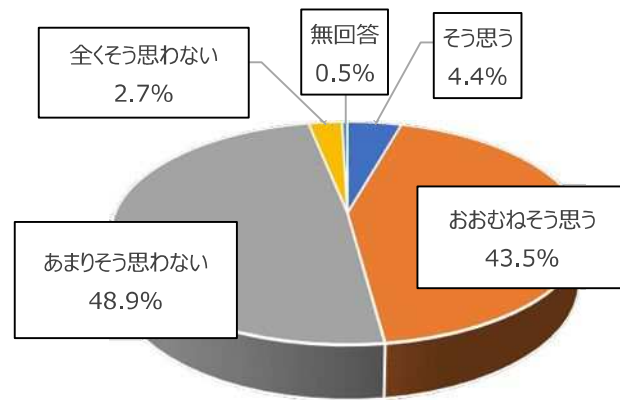
問2 あなたは、岐阜県が結婚・出産・子育てについて、夢や希望を持ったり、楽しい・頑張ろうなど、前向きに考えることができる社会であると思いますか。

	人数	構成比
そう思う	48	7.3%
おおむねそう思う	310	46.8%
あまりそう思わない	276	41.7%
全くそう思わない	25	3.8%
無回答	3	0.5%
合計	662	100.0%



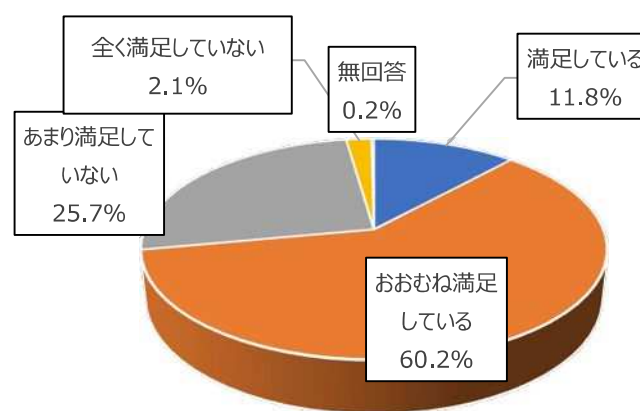
問3 あなたは、岐阜県が、こどもの社会参画・意見表明の機会が確保されている社会であると思いますか。

	人 数	構成比
そう思う	29	4.4%
おおむねそう思う	288	43.5%
あまりそう思わない	324	48.9%
全くそう思わない	18	2.7%
無回答	3	0.5%
合 計	662	100.0%



問4 あなたは、岐阜県で子どもを育てていること、または育てたことについて、満足していますか。
(子育て中及び子育て経験者／回答者483人)

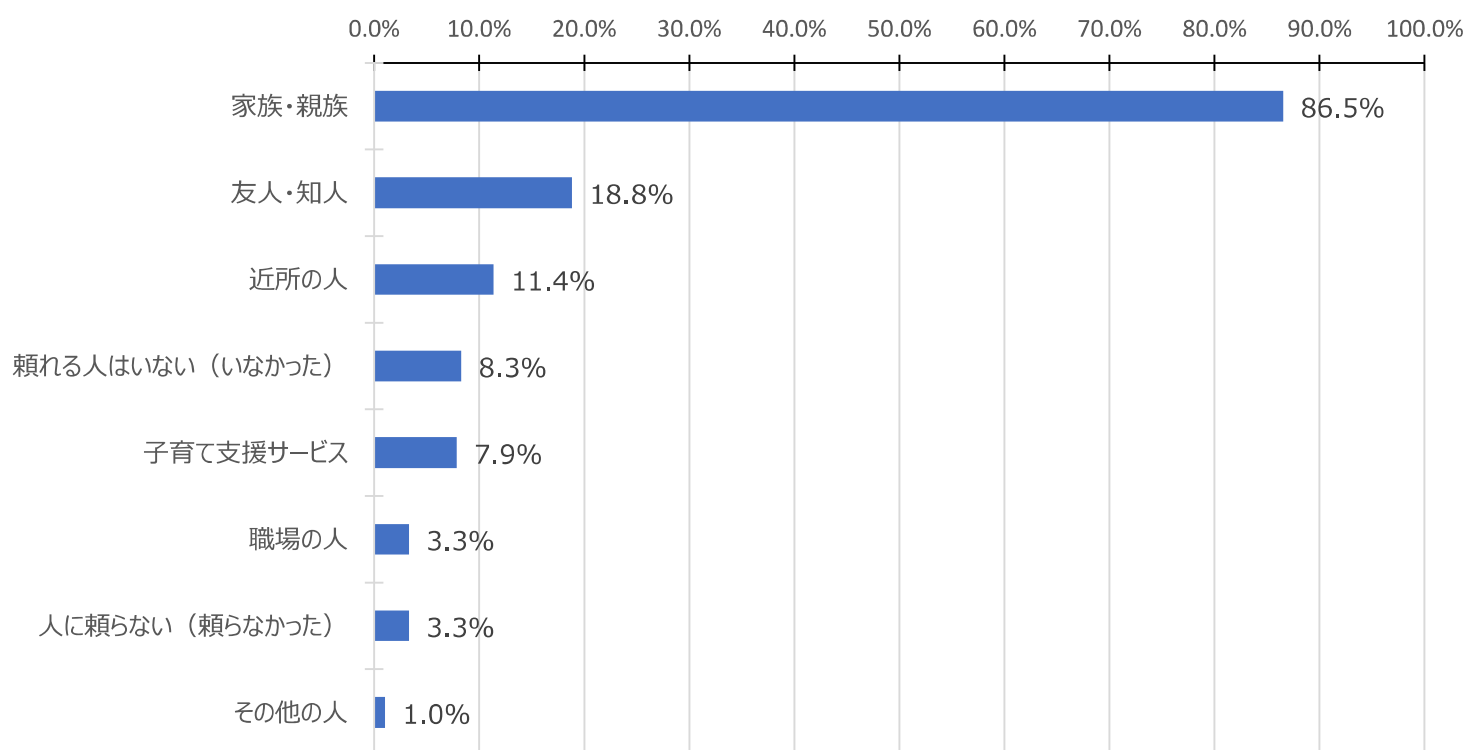
	人 数	構成比
満足している	57	11.8%
おおむね満足している	291	60.2%
あまり満足していない	124	25.7%
全く満足していない	10	2.1%
無回答	1	0.2%
合 計	483	100.0%



問5 こどもの世話や看病について頼れる人がいますか、またはいましたか。(複数回答)

(子育て中及び子育て経験者／回答者483人)

	人 数	構成比
家族・親族	418	86.5%
友人・知人	91	18.8%
近所の人	55	11.4%
頼れる人はいない (いなかった)	40	8.3%
ファミリー・サポート・センター、一時預かり保育等の子育て支援サービス	38	7.9%
職場の人	16	3.3%
そのことでは人に頼らない (頼らなかった)	16	3.3%
その他の人	5	1.0%
合 計	679	

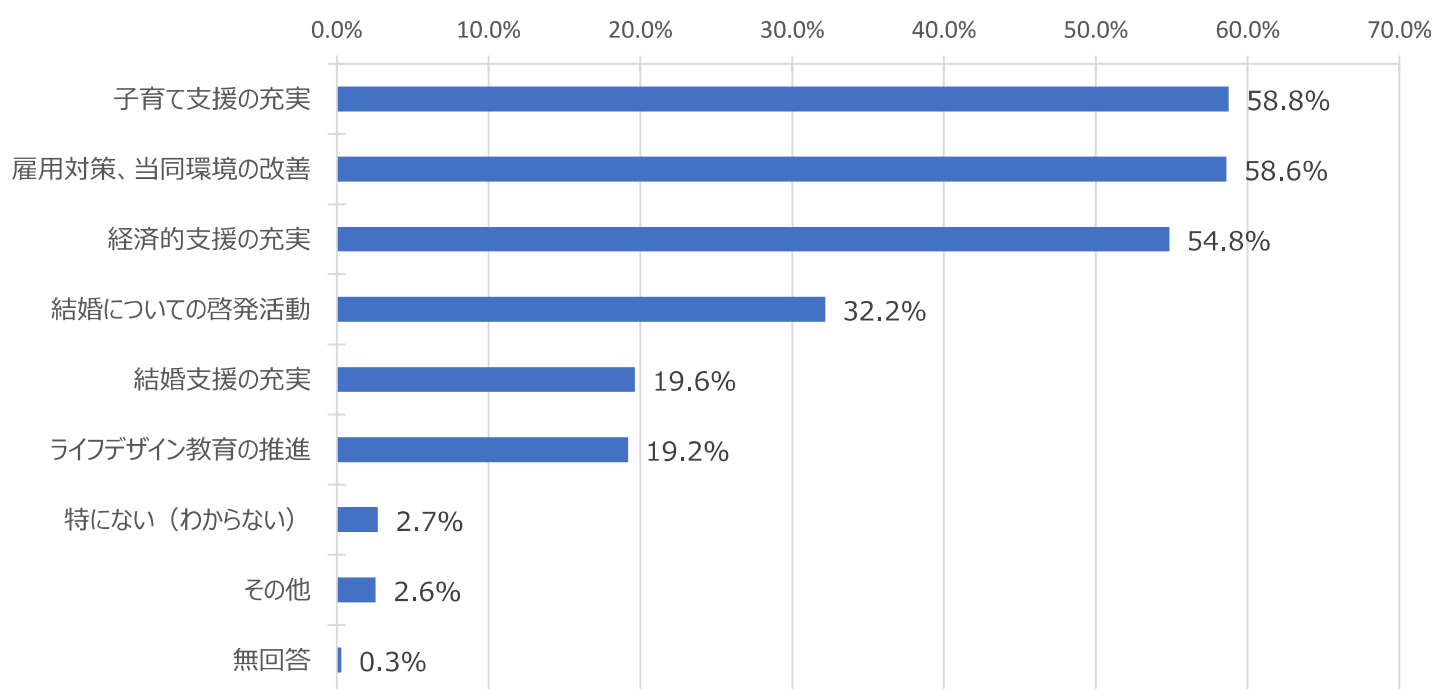


「その他」のうち主なもの

- ・放課後デイサービス
- ・病院併設の病児保育

問6 あなたは、結婚や家庭をもつことについて夢や希望を持てる社会にするためには何が必要だと思いますか。(複数回答)

	人 数	構成比
子育て支援の充実	389	58.8%
雇用対策、当同環境の改善	388	58.6%
経済的支援の充実	363	54.8%
結婚についての啓発活動	213	32.2%
結婚支援の充実	130	19.6%
ライフデザイン教育の推進	127	19.2%
特にない (わからない)	18	2.7%
その他	17	2.6%
無回答	2	0.3%
合 計	1,647	



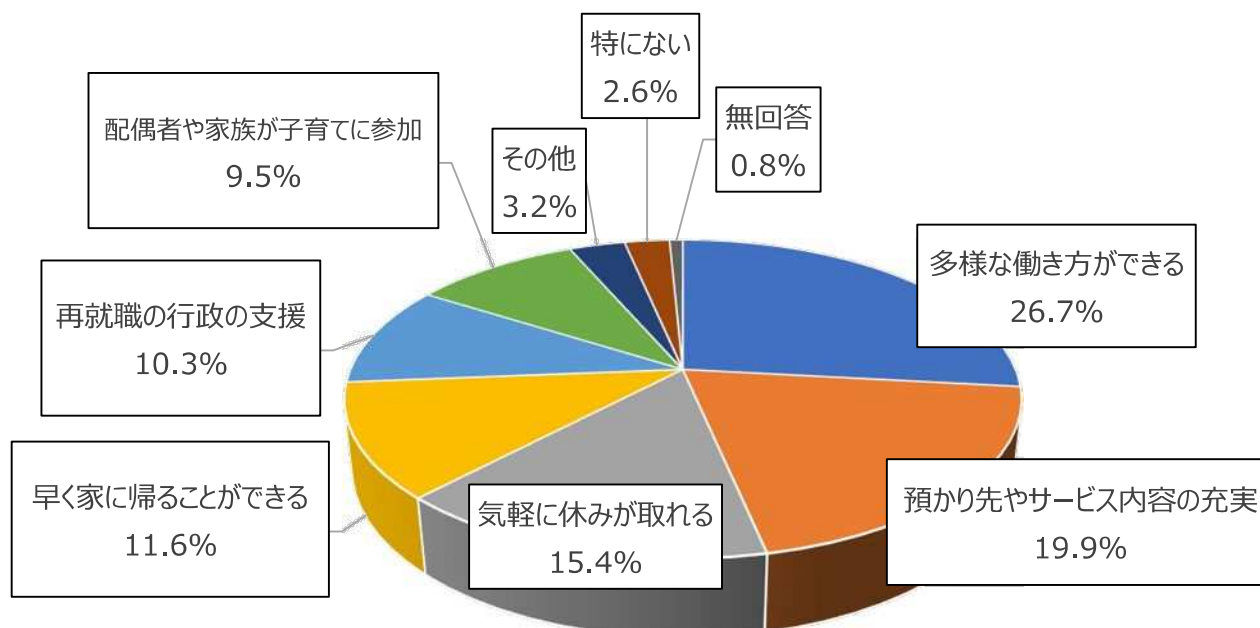
「その他」のうち主なもの

- ・大学の無償化など、教育費がかからないこと
- ・お金を気にせず子供が産める、育てられる政策
- ・若い内から恋愛・結婚・出産・子育てを前向きに捉えられる様、男女の話題をタブー視しない事
- ・経済支援ではなく、経済そのものを全体で底上げするような抜本的な政策改革

問7 あなたは、男女がともに働きながら安心して子育てができる社会の実現のために、必要なものは何だと思いますか。

(最も必要なもの1つ)

	人 数	構成比
多様な働き方ができること（短時間勤務や在宅勤務など）	177	26.7%
子どもの預かり先（保育園、放課後児童クラブなど）やサービス内容が充実すること	132	19.9%
出産・子育てなどで気軽に休みが取れること	102	15.4%
早く家に帰ることができること（時間外労働を減らすこと）	77	11.6%
出産・子育てなどで退職しても再び働くことができるような行政の支援があること	68	10.3%
配偶者や家族が子育てに参加すること	63	9.5%
その他	21	3.2%
特にない（わからない）	17	2.6%
無回答	5	0.8%
合 計	662	100.0%



「その他」のうち主なもの

- ・所得の向上、安定した収入
- ・社会や周りの人たちの意識の改革
- ・男女格差の解消
- ・上記のいずれも大切

文化活動に関するアンケート調査結果

文化創造課・文化伝承課

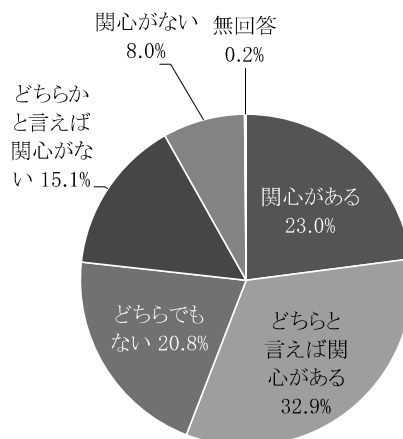
1 調査目的

今後の県文化行政の参考にするため、文化活動に対する皆さんの率直なご意見やご感想を伺いました。

2 調査結果

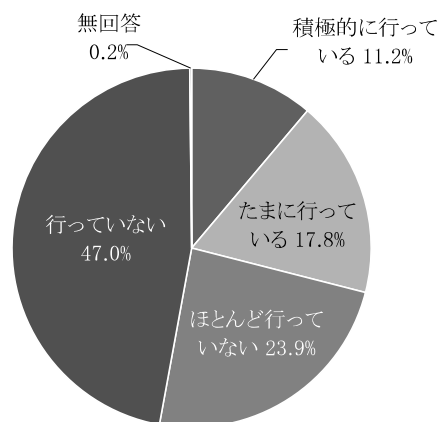
問1 文化芸術の創作活動に関心がありますか。

	人数	割合
関心がある	152	23.0%
どちらと言えば関心がある	218	32.9%
どちらでもない	138	20.8%
どちらかと言えば関心がない	100	15.1%
関心がない	53	8.0%
無回答	1	0.2%
計	662	100.0%



問2 文化芸術の創作活動を行っていますか。

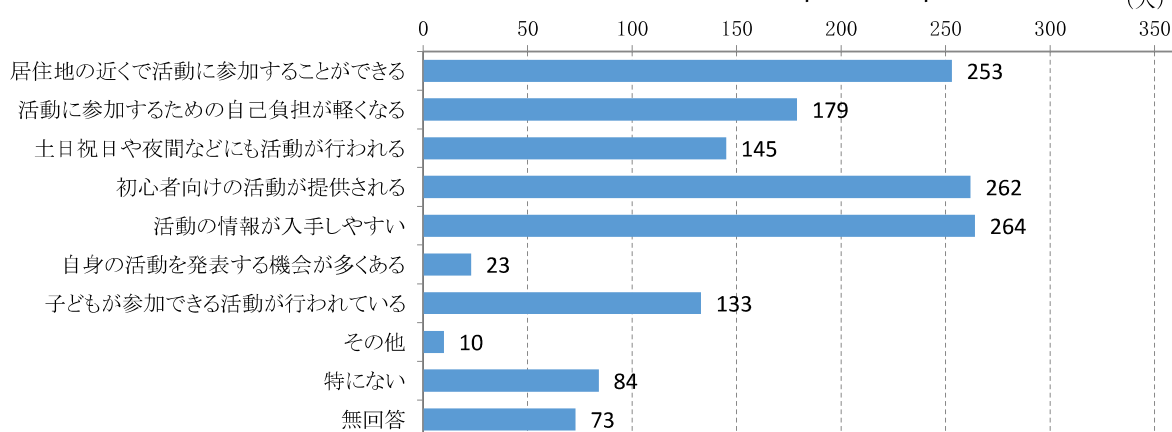
	人数	割合
積極的に行っている (月1回以上)	74	11.2%
たまに行っている (年数回程度)	118	17.8%
ほとんど行っていない (年1回程度)	158	23.9%
行っていない	311	47.0%
無回答	1	0.2%
計	662	100.0%



問3 (問2で「たまに行っている」「ほとんど行っていない」「行っていない」と答えた方)
 どうすれば文化芸術の創作活動にもっと参加しやすくなると思いますか。

(複数回答) 回答者 587人

	回答数	割合
居住地の近くで活動に参加することができる	253	43.1%
活動に参加するための自己負担が軽くなる	179	30.5%
土日祝日や夜間などにも活動が行われる	145	24.7%
初心者向けの活動が提供される	262	44.6%
活動の情報が入手しやすい	264	45.0%
自身の活動を発表する機会が多くある	23	3.9%
子どもが参加できる活動が行われている	133	22.7%
その他	10	1.7%
特になし	84	14.3%
無回答	73	12.4%
計	1,426	-

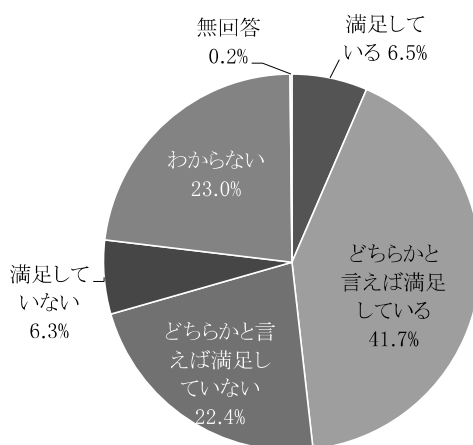


「その他」のうち主なもの

- ・ 小規模で多くの選択肢があるとよい
- ・ 子供のころから、祭り行事に参加させる

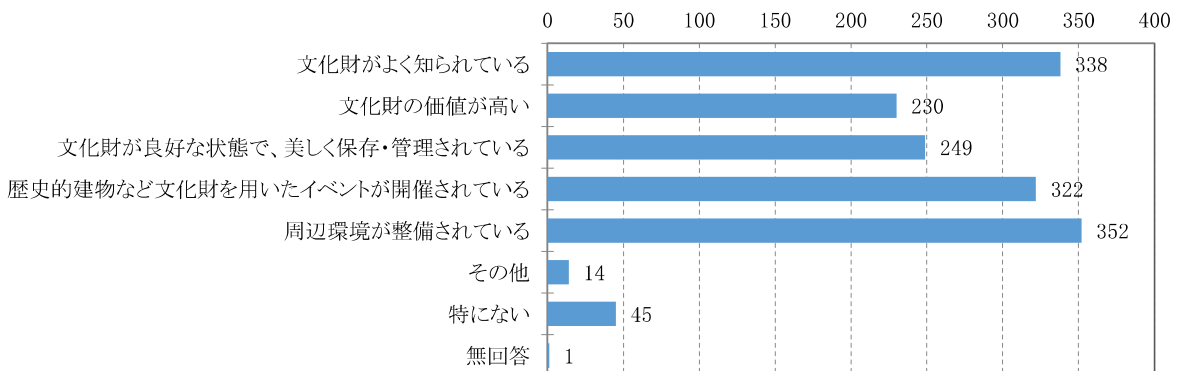
問4 身近にある文化的環境に満足していますか。

	人数	割合
満足している	43	6.5%
どちらかと言えば満足している	276	41.7%
どちらかと言えば満足していない	148	22.4%
満足していない	42	6.3%
わからない	152	23.0%
無回答	1	0.2%
計	662	100.0%



問5 どうすれば文化財を鑑賞するためにその場所を訪れたいと思いますか。
(複数回答) 回答者 662人

	回答数	割合
文化財がよく知られている	338	51.1%
文化財の価値が高い	230	34.7%
文化財が良好な状態で、美しく保存・管理されている	249	37.6%
歴史的建物など文化財を用いたイベントが開催されている	322	48.6%
周辺環境が整備されている	352	53.2%
その他	14	2.1%
特にない	45	6.8%
無回答	1	0.2%
計	1,551	-

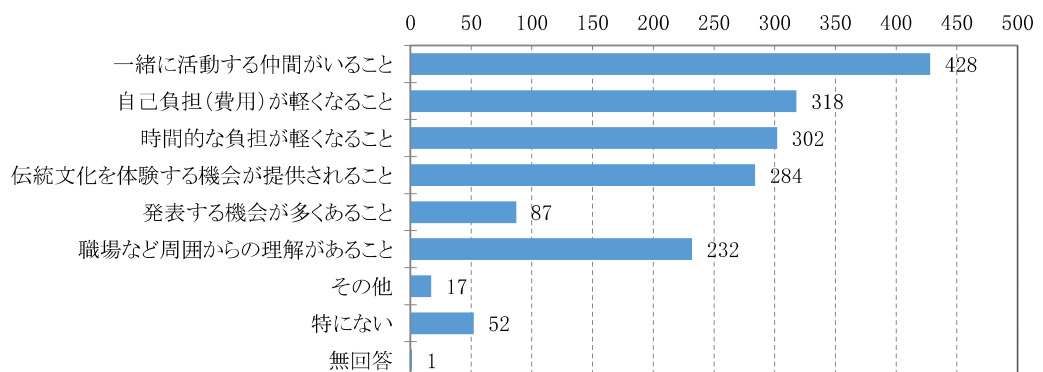


「その他」のうち主なもの

- ・文化財と日常生活の結びつき、地域との結びつきを、もっと使えるようにするべき
- ・地域活動の拠点になっている

問6 伝統文化の担い手になるとしたら、どのようなことが重要だと思いますか。
(複数回答) 回答者 662人

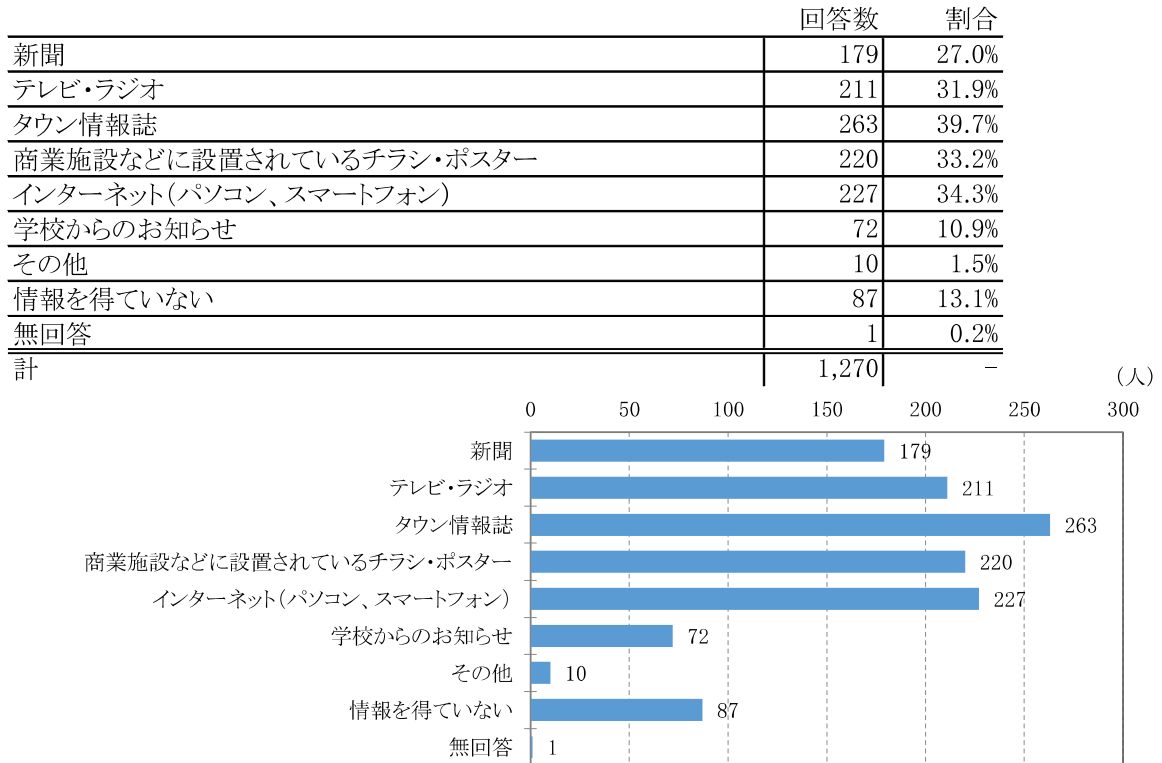
	回答数	割合
一緒に活動する仲間がいること	428	64.7%
自己負担(費用)が軽くなること	318	48.0%
時間的な負担が軽くなること	302	45.6%
伝統文化を体験する機会が提供されること	284	42.9%
発表する機会が多くあること	87	13.1%
職場など周囲からの理解があること	232	35.0%
その他	17	2.6%
特にない	52	7.9%
無回答	1	0.2%
計	1,721	-



「その他」のうち主なもの

- ・ 幼少期からの伝統文化に触れる機会を増やしたり関わりを持つこと
- ・ 経験者、教育者が新規参入者に理解があり受け入れ精神があること

問7 県の文化芸術事業の情報について、何によって知ることが多いですか。
(複数回答) 回答者 662 人



「その他」のうち主なもの

- ・ 市の広報
- ・ 知人との交流の中から

県産農畜水産物の消費行動・認知度等に関するアンケート調査結果

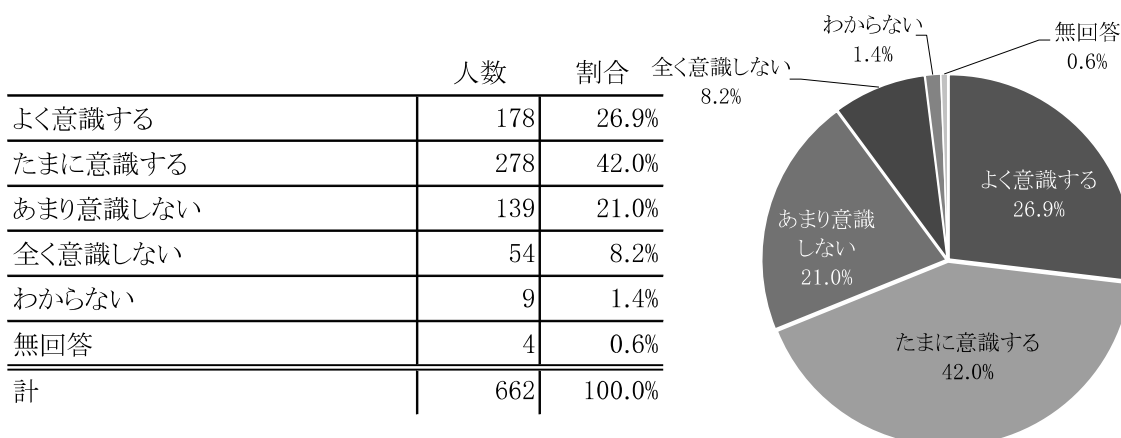
農政課

1 調査目的

県民の皆さんの安全・安心な食生活について現状や意識を把握し、今後の施策の参考とするため、県民の皆さんの意見や感想を伺いました。

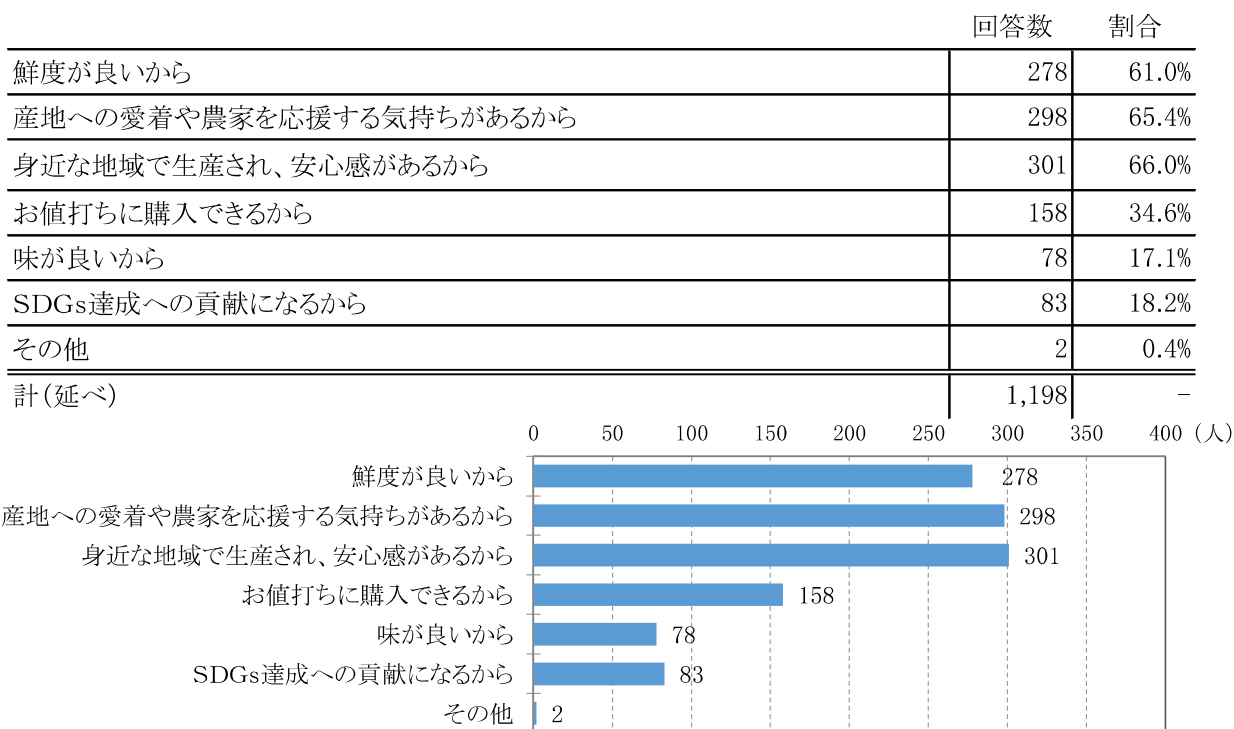
2 調査結果

問1 農産物を購入するとき、岐阜県産のものを選ぶなど「地産地消」を意識していますか。



問2 (問1で「よく意識する」または「たまに意識する」と答えた方)

地産地消を意識して購入するのはなぜですか。 (複数回答)回答者456人

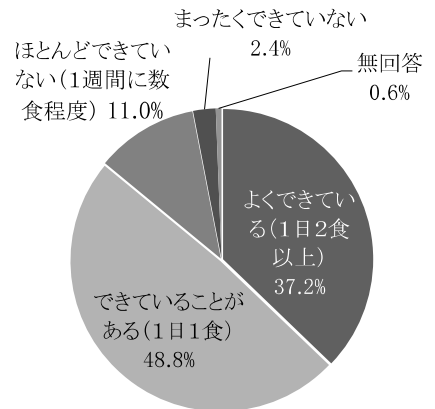


「その他」のうち主なもの

- ・その季節に地域で採れるものを食べるのが身体によいと思っている。

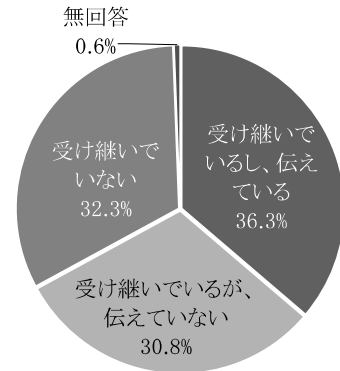
問3 主食、主菜、副菜を基本にバランスのとれた食生活を送っていますか。

	人数	割合
よくできている(1日2食以上)	246	37.2%
できていることがある(1日1食)	323	48.8%
ほとんどできていない(1週間に数食程度)	73	11.0%
まったくできていない	16	2.4%
無回答	4	0.6%
計	662	100.0%



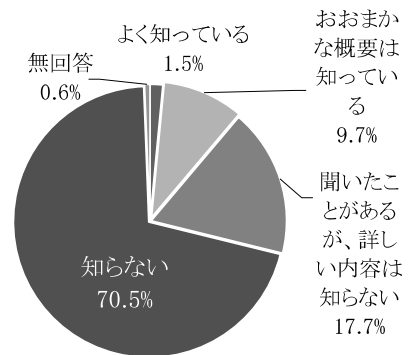
問4 郷土料理や伝統食など、地域や家庭に伝わる料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法について受け継いでいますか。また、地域や次世代(子どもやお孫さんを含む)に伝えていますか。

	人数	割合
受け継いでいるし、伝えている	240	36.3%
受け継いでいるが、伝えていない	204	30.8%
受け継いでいない	214	32.3%
無回答	4	0.6%
計	662	100.0%



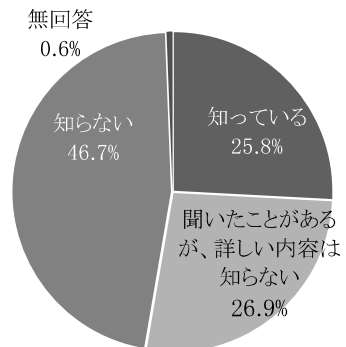
問5 「ぎふ清流GAP評価制度」あるいは「ぎふ清流GAP農産物」をご存じですか。

	人数	割合
よく知っている	10	1.5%
おおまかな概要は知っている	64	9.7%
聞いたことがあるが、詳しい内容は知らない	117	17.7%
知らない	467	70.5%
無回答	4	0.6%
計	662	100.0%



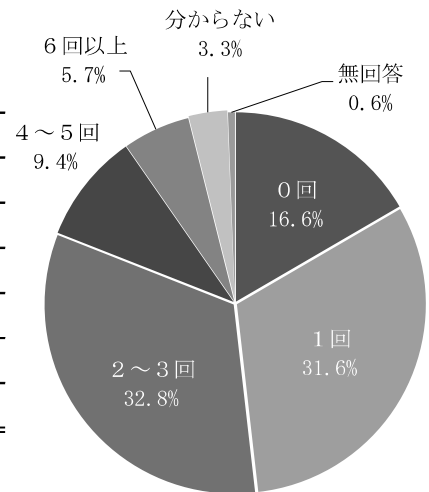
問6 「清流長良川の鮎」が世界農業遺産に認定されたことをご存じですか。

	人数	割合
知っている	171	25.8%
聞いたことがあるが、詳しい内容は知らない	178	26.9%
知らない	309	46.7%
無回答	4	0.6%
計	662	100.0%



問7 あなたは、鮎料理を1年に何回程度食べていますか。

	人数	割合
0回	110	16.6%
1回	209	31.6%
2～3回	217	32.8%
4～5回	62	9.4%
6回以上	38	5.7%
分からない	22	3.3%
無回答	4	0.6%
計	662	100.0%



問8 県農政及び安心安全な食生活に関してご意見などがございましたら、お聞かせください。
(主な意見)

《安心・安全な農産物について》

- ・引き続き安心安全な食生活が送れるように県農政として期待しています。
- ・昨今の物価高などの経済的な問題は、こうした安心安全な食生活を選択する余裕を奪い、家計に大きな負担をかけています。
- ・食品添加物について国と協力してもっと制限してもらいたい。
- ・食生活について、昔の食生活を学ぶ機会を増やし、食の安全を学ぶ機会を増やしてほしい。
- ・生産者がわかるような食品表示が増えると安心して購入できる。

《農産物の地産地消について》

- ・地産地消を心がけています。物価高ですが、地元の農家の皆さんを助けたいです。
- ・地産地消を買うことのできる場所がわかるマップをネット上に公開されているとよい。
- ・岐阜産であることをもっとアピールして販売して欲しい。
- ・スーパーでも、岐阜県産の商品を購入しています。地元の商品は、美味しいです。

《食料自給率・食料安全保障について》

- ・農業離れの改善が必要です。特に米農家を守って増やしていくことが大事です。
- ・将来の産業安定に向け、人材育成をしっかり続けることが大事。

《農産物のPRについて》

- ・岐阜県の名産が全国に知れ渡り、多くの人に食していただけると嬉しいです。
- ・岐阜県の伝統野菜をもっとPRして周知して欲しい。
- ・ぎふ清流GAP(ギャップ)評価制度や世界農業遺産(GIAHS(ジアス))に認定する制度は全く初めて聞く言葉であった。これから応援していきたい。
- ・農業祭など もっと各地域の祭り事をPRして欲しい

《その他、農政に関する意見》

- 最近周辺でも耕作放棄地が増えてきており、こうした耕作放棄地に対する対策についても考えてほしい。
- 県の農産物・水産物は美味しくて、安全というイメージがあります。これからも頑張ってください。
- 空いている時間を利用して農業のアルバイトをしたいと思っています。
人手が欲しい農家さんとのマッチングなど、行政でもらえると良いと思う。
- お米の価格を安定させてほしい、岐阜県民が岐阜のお米を安く買える仕組みを作ってほしい。
- 鮎の漁獲量+養殖量が全国1位とは家族が漁業組合員なのに知りませんでした。もっと宣伝すべきだと思います。